



生徒会主催のレクリエーションが開催されました。鬼ごっこに似たゲームを役員が考案しみんなでわいわいと実に楽しそうでした。競技終了後、ブロックごとの集計を待っている時間に、「校長先生お話をお願いします」とマイクを向けられました。準備していません。思わず出た言葉は、「みんなの姿がサンタクロースや



トナカイにみえたなあ（間）。**2日早いけど、メリー・クリスマス!**」でした。校長らしくない軽率なあいさつでしたが、大きな拍手をいただきました。うれしそうでした。

実は若い頃この時期に苦い経験があります。保護者の方が立派なクリスマスツリーを「飾ってください」と寄贈していただいたことがあり、喜んで廊下に飾ったら、管理職から「すぐに片づきなさい」と怒られた経験です。それは宗教的な理由ということではなく、そんな浮ついたことをしてはいけない、油断していると大変なことになるぞ、という戒めであったと当時は自分で理解し、すぐに撤去しました。



でも、クリスマスというのは人生において大切な日です。お子様にプレゼントを枕元に置くサンタ経験のある保護者も多いことでしょう。プレゼントを交換したり、ケーキを食べたり、賛美歌を歌ったり。街ではクリスマス・ソングが流れ、おしゃれなイルミネーションも祝福の演出をしています。幸せがあちらこちらで飛び回り踊りまわる日です。

ツリーを学校に飾ることすら許されないのはとてもおかしいことです。今の東部中にはクリスマス関係の掲示物等がたくさん校舎内にあります。さわやか学級の子たちが製作したツリーや図書ボラさんが飾ってくださったものもあります。地域の方が寄贈してくださったサンタの描かれた絵もあります。それらの周りには潤いができています。こういう環境こそ、**人生において大切な一コマを味わううえで**重要ではないかと思えます。こうして飾ることができるというのは、東部中がそれだけ落ち着いている、平和である、と言えるかもしれません。

しかし、今、「平和」と書いてふと思考が立ち止まってしまいました。キリストの生誕地ベツレヘムはパレスチナ自治区ガザへの連帯のために、行事を自粛するという記事が出ていました。悲惨な戦争が今も行われ、平和の実現の難しさを語っています。目には見えないサンタが平和を目指してガザの地で、ウクライナで、いっぱい飛び交っているような…。 **メリー・メリー・クリスマス!**